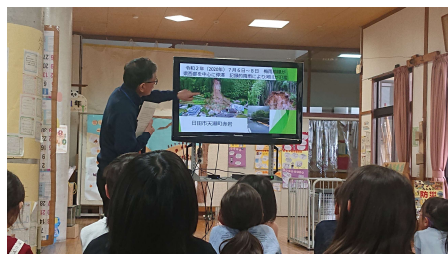


学校通信 ひがしやま 第82号

発行日 令和7年3月12日(水)
発行者 別府市立東山幼稚園
別府市立東山小学校
別府市立東山中学校
校(園)長 谷川 芳明

○防災講話の開催について (3/11)

5限に保護者の武蔵さんを講師に招いて、幼稚園児から中学生までを対象に東日本大震災を振り返る授業を行いました。講師からは画像を通して、発災当時の状況やご自身の体験にふれ、さらに震災に関わる読み聞かせをしていただきました。講師の、この機会に家庭でも防災について、話して欲しいということが、子どもたちに伝わったと思います。小中学校では、3.11の後に生まれた子どもたちが大部分を占めるようになっていくこともあり、災害の経験あるいは教訓を継承し、風化させないことが大切です。



私からは「令和2年7月豪雨」の被害について話をしました。小学校3、4年生が遠隔交流を通して関係を築いた九重町立野矢小学校が、この集中豪雨で、大変な被害を受けたことを伝えました。

★★

○第78回東山中学校卒業式について (3/7)

保護者、来賓(15名)、在校生、職員に見守られて、3年生8名が卒業証書を手に、本校を巣立ちました。練習の成果はもちろんですが、その立派な態度に感心しました。

本園・本校で過ごした期間は、それぞれ異なりますが、皆、在校生から惜しまれながら、卒業しました。今年度、卒業式に出席した小学校5年生及び6年生には、その姿をみて、強烈な印象を残したと思います。そして自分たちのいずれ来るイメージをもつことができたと思います。

今日、卒業を迎えるまでの間、一方ならぬご支援をいただきました地域の皆様、PTAの皆様、職員一同、心より感謝申し上げます。

長年、子どもたちを成長を見守り、支援していただいている地域の来賓の方からは、「子どもたちが立派に成長した。とてもよかった」と。また本校の卒業式に「だけ」、希望され、出席された県立別府翔青高校 小幡校長は式終了後「大変すばらしかった。こみ上げるものがあつた」と。

校長式辞の一部(最後)を記載します。

「人の成長を樹木に例えて、晴れの日には葉が育ち、雨の日には根が育つと言うことがあります。つらかった記憶も、いつか時が和らげてくれます。これから先、今までよりもはるかに多くの出会い、思いもかけないチャンスが待っています。

皆さんは、時に誰かの支えとなり、時に誰かに支えられて、どうか笑顔を忘れずに人生を歩んでほしい。あなたたちなら、きっと、それができます。卒業おめでとう」